

受付No.

## 2026年度 アートによる地域振興助成（スタートアップ）

公益財団法人 福武財団 理事長 福武英明殿

募集要項に則り、本応募用紙に記載した通り、標記助成に応募いたします。

## &lt;団体プロフィール&gt;

団体名	NPO対馬郷宿				
住所	〒817-0013 長崎県対馬市厳原町中村584半井桃水館				
団体区分	NPO（特定非営利活動法人）	スタッフ数	6名		
代表者氏名（カナ）	ハラダ ヒデノブ	役職	会長	年代	70代
代表者氏名	原田 秀信				
団体URL1	https://tsushima-tosui.com/				
団体URL2					

## &lt;申請者・実務担当者&gt; ※団体所在地と同じ場合は「同上」\*申請者には、助成に関する諸手続きの連絡担当者の名前を記入してください。

申請者氏名（カナ）	カギモト タエコ	役職	理事	年代	60代前半
申請者氏名	鍵本 妙子				
連絡先 e-mail	nakaraitousuikangeijutusai@gmail.com	電話番号	090-5290-7146		
住所（書類の送付先）	同上				

## &lt;プロジェクトリーダーの略歴&gt; ※アートプロジェクト等の運営経験や当時の役割を記載してください。

氏名（カナ）	オグリスマリコ	役職/肩書	ディレクター／対馬博物館学芸員(主任)	年代	30代後半
氏名	小栗栖 まり子				
年（西暦） 月	略歴（活動内容）				
2015年2月	長崎大学卒業後、韓国・国民大学校大学院美術学科博士課程（絵画専攻）入学、修了				
2014年8月	韓国・昌原彫刻ビエンナーレにて日本人アーティスト担当スタッフを務める				
2015年8月	九州産業大学美術館にて学芸員として勤務				
2018年6月	「パリ→池袋→福岡・モンパルナス-芸術家が街に出る-」（九州産業大学美術館）				
2018年9月	「名品は師なりー教育用標本としての芸術コレクションー」（九州国立博物館ミュージアムホール）				
2019年3月	対馬市観光交流商工部博物館建設推進室にて対馬市立博物館の設立に従事。				
2022年4月	対馬博物館にて学芸員として勤務				
2024年4月	市制施行20周年記念特別展 対馬の美術 I 「対馬に生きた画家たち」（対馬博物館）の企画実施				
2024年7月	対馬博物館企画展「泡ひとつよりうまれきし 山内光枝展」（対馬博物館）の企画実施				
2020年11月	ナム・ファヨン映像作品「imjingawa(イムジン河)」上映会を対馬各所で開催。				

## &lt;福武財団の助成実績&gt;

助成を受けて活動した年度

## &lt;外部協力者の状況&gt;

氏名	年代	組織名	所在地（市町村まで）	協力内容（できるだけ具体的に）
黒田大スケ	40代前半	アーティスト	京都市中区	本プロジェクトのキュレーター、アーティスト。対馬アートファンタジアではアーティストのキュレーションを務めた。
上野芳喜	60代後半	対馬エコツアー（シーカヤック）	長崎県対馬市	対馬の海岸環境問題の専門家であり、アーティストとの協働経験多数。イベントの補助。アドバイスなど
阿比留忠明	50代後半	対馬市役所	長崎県対馬市	対馬市でのアートイベントの運営、対馬市博物館の設立および運営に従事。対馬市との連絡係。アドバイス。
豊田充	60代後半	対馬市宮谷地区区長	長崎県対馬市	元市役所員で対馬市でのアートプロジェクトの立ち上げ経験あり。地域との折衝、交渉係。

<活動内容・事業計画について>

表現手法	アーティスト・イン・レジデンス
活動テーマ	へき地（の地域振興）
事業名	半井桃水館芸術祭シャンデリア
2026年度の活動期間	2026/09/01 ～ 2026/11/15
活動に従事するスタッフ数	2名

1. 団体の活動の概要

<p>2001年に対馬に残存していた半井桃水（なからいとうすい）の生家とされる家の保存運動がはじまり、2006年に「半井桃水館」が完成。同年、設立に携わったメンバーを中心に、施設運営と周辺のまちづくりを目的としたNPO対馬郷宿が設立。桃水関連の資料の展示、市民の交流の場の提供等のサービスの他に文化芸術に関する取り組みを多数行っている。2011年から対馬で開催された「対馬アートファンタジア」では地域サポーターの中心的な役割を務め、これを機に多くの芸術家の対馬での活動拠点、アートセンター的な役割も果たしている。* 半井桃水（1861年-1926年）対馬市生まれ。ジャーナリスト・小説家。樋口一葉の師、初恋の相手としても知られる。</p>
---

2. これまでの活動の沿革

申請事業の活動年数	1～2年
年（西暦） 月	活動内容
2024年9月	半井桃水館芸術祭シャンデリア開催。
2025年10月	半井桃水館芸術祭シャンデリア開催。シーカヤックミーティング開催。

3. 活動エリアについて

活動エリア	長崎県 対馬市
活動エリアの特色（歴史、文化、地域性、魅力など）	対馬は九州から120km韓国釜山より約50kmの海上に位置する島で、古くは大陸と日本列島を結ぶ、様々な出自の人々が行き交う交通の要所として栄えました。また国境の島として国家間の摩擦に常に翻弄されてきた島でもあります。現代においても韓国との結びつきは強く、様々な問題や課題に直面しつつも各方面で交流と連携が図られています。ツシマヤマネコに代表されるガラパゴス的な離島特有の豊かな自然や動植物、そして万葉の時代から、元寇、朝鮮通信使など、積み重ねられた歴史は、他に類を見ない魅力的なものであり、多くの文学や芸術作品の題材となってきました。また近年はゲームの舞台としても知られ欧米からの旅行者も増えています。
活動エリアの課題（まず初めに、活動エリアにおける課題を簡潔にご記載ください。続けて、その課題の背景や詳細について、できるだけ具体的にご記入ください。）	対馬は、少子高齢化と過疎化、海洋ゴミの問題に直面しています。少子高齢化と過疎化は珍しくないものですが、離島である対馬は問題の進行が加速度的に進み、学校の閉校などによる僻地の子どもたちの不登校や教育崩壊の問題は深刻です。また地域自体の消失が迫る地域もあります。海洋ゴミ問題は、対馬だけで解決不能な人類全体の問題であり、ゴミの回収や利活用には止まらず、ゴミの発生抑制に取り組む必要があり、ゴミが漂着する地域として広くアピールする必要があります。対馬は多くの自然や歴史の遺物が残る島ですが、それは開発が進んでいない証拠でもあり、地場産業は弱く、行政には問題に取り組む経済力がありません。
貴団体の地域に対するミッション（活動の目的）	年間出生率が100人を下回る中、私達に出来ることは島に暮らす子ども達を大切にすることです。対馬は国境の島であり多様な文化を理解する国際感覚を身につける必要があります。その為の方法として多様な人々が表現を通じて交流し互いに尊重し合う現代アートに触れることは非常に意義のあることです。一方で対馬には美術館がなく子ども達がアートや文化芸術に触れる機会は殆どありません。貧困家庭や問題のある家庭であれば尚更で、島内でも学習環境の格差が生じています。こうした中で我々は、芸術祭やアートの取り組みを通じ地域の魅力を再確認し、子ども達がアートやアーティストに出会える環境を創出することをミッションと考えています。



7. 2026年度のプロジェク評価の観点や指標をどのように設定しますか。

定性（状態的な目標）、定量（数値的目標）をお書きください。

・展覧会の入場者数に関しては、メイン会場の半井桃水館の平時の来場者が月当たり3000～5000人と突出して多く、展覧会の来場者と区別が付き難い為、アンケートの回収数を1つの目安として定量的に評価します。具体的な数値目標は、①アンケートの回収数を1500。②桃水館以外の会場の平均来場者数1500人。③島外から500人。④高校生以下の入場者数500人。（子ども向けチラシの制作、子ども向け鑑賞ツアーの開催など、子どもたちが鑑賞しやすい状況作りに努めます。また学校や各機関・団体に協力を依頼し、不登校などの状況にある子どもたちの中でも芸術に関心を持つ子どもたちに開催情報を周知していきます。）

・定性的には、まず、第1に地域の人々から応援される取り組みとなることを目標とします。アーティストインレジデンスは地域に受け入れられ応援される活動となることが非常に重要と考えています。つぎに、特に不便な離島での開催ですので、来場者のアクセシビリティの満足度についても評価したいとおもいます。以上はアンケートや聞き取りから評価し、併せて、満足度や内容に対する意見からも評価します。

8. 2026年度の翌年以降の、地域に持続的に関わる中期計画と将来ビジョンをお書きください。

※一般申請者は、その計画・ビジョンの展開がこれまでの活動の積み重なりどのように紐づいているかと、その展開に事業や運営体制をどのように反映していくかについてもお書きください。

2026年度以降も活動を継続していきます。中長期的には次のような目標を据えています。

①「アーティスト・イン・レジデンスの継続」将来的には年間に2～3人程度の少人数で

持続することを優先しアーティスト・イン・レジデンスを継続したいと考えています。幸いにも半井桃水館には年間4万人以上の観光客が訪れます。その内の9割が韓国のお客様です。この状況に対し、アーティストの発想に助けられ、オリジナルのお土産やフォトスポットや衣装提供などの諸サービスでの収益化に取り組んでいます。将来的にはこの収益によって、大きな補助金や助成金に頼らない持続可能性の高いアーティスト・イン・レジデンスの実現を目指しています。（5年以内に実現したい）

②「周辺地域との連携によりアジアのアートのハブとなるような組織を作る」九州、韓国

他アジア圏のアーティスト、アート関係者や施設との連携に力を入れることで、として、かつて対馬の人々が海を行き交い育んだような水平的なネットワークを築きたいと考えています。実際に既に、対馬、九州、釜山のアート関係者の組織作りに取り組んでいます。（1～2年のうちに実現したい。）このことにより、アーティスト・イン・レジデンスを継続性のある強固なものとする事で、子どもたちが、対馬で現代アートにふれる機会を作り出し、また活動が、多様性やお互いを尊重することの大切さを育む鑑賞機会を創出するものとなることを願っています。活動が長じて交流の機会創出と観光資源となるよう粘り強く取り組んでいきます。

9. 2026年度以降、複数年の助成を希望していますか？

はい

<活動の様子>



2024~2025の滞在制作の様子。  
1ヶ月程度、対馬の市内各所の  
古民家に滞在し、取材や制作に取  
り組む。



2024~2025年の展覧会の様子と  
チラシ。現地制作した作品を市内  
各所で展示。会場は古民家、旧  
小学校等。



2025年に実験的に開催したシーカ  
ヤックミーティングの様子。2026年  
は日韓のアート関係者を多数招く。

